

平成28年度 輪之内町立福東小学校 自己評価書(学年末用)

学校の教育目標	<b>豊かな心 たくましい力のある子</b> <b>～考える子 仲よくする子 やりぬく子～</b>
経営の重点	<b>自信と笑顔があふれる学校 安心して生活できる学校</b>

評価基準 A：実践し、効果をあげることができた。  
 B：実践し、一部の効果をあげることができた。  
 C：実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D：実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の観点	評価	3学期の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価(意見)
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする	1 ◎ ＜特色ある学校＞幼保・小・中の一貫性のある指導を充実させ、各学校の児童生徒や地域の特色を生かした創意ある教育課程を編成・実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流をもち、実態をつかむことができた。</li> <li>運動会、命を守る訓練など、新しい交流ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校体験入学</li> <li>→引き続き交流の場を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ利用者が拡大している。HPの活用をUPする必要がある。</li> <li>・スリム化に向けての見直しの方向はよい。</li> <li>・英語も入り、教師のやることがいっぱい増えた。教師が授業に取り組めるように、教育委員会に訴えていくことも必要。</li> <li>・研修も大切だが、無駄なことは省いていく。19時、20時まで、電気がついているのは異常なことである。一番は、子どもと向かい合う時間の確保である。</li> </ul>
	2 ＜開かれた学校＞学校の教育方針や指導改善に向けての方針を受けた教育活動を積極的に公開し、学校評価や児童生徒の実態等を学校経営に生かし、開かれた学校づくりを推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員会や学校保健安全委員会が出た意見を取り入れて、給食時間の確保や廊下掲示の刷新・撤去など、課題の改善ができた。また、学校の方針や現状を伝えて、運動場の除草など町に改善要望ができた。</li> <li>・夏休みにホームページの更新の仕方を選び、学校通信や学習状況分析を更新できた。通信が定期的に出せた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→改善した点については、児童の実態や意見を集約し、成果を伝えていく必要がある。</li> <li>→学校HPに学級通信(個人名、内容、写真等に注意)をアップするなどして、ブログ更新に代える。</li> <li>→渡りっばなしでおわるのではなく、見届けが必要。</li> <li>→児童に確認する。懇談会の折に話題にする。</li> </ul>	
	3 ＜危機管理＞児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、全教職員が危機意識をもって一人一人の安全・安心の確保に努め、学校内外の環境を見直すとともに、家庭・地域社会・関係機関等との連携強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーや管理票を持った児童について、情報が入り次第、会議をもち、今後の対応の手順を確認することができた。また、保護者との懇談の場をもち、対応について確認の場を持つことができた。</li> <li>・落ちてくると大げかに繋がるような物を高いところに置かない。</li> <li>・積極的に下校指導に向かい、登下校についても指導できた。</li> <li>・管理職の指導のもと、安全意識は高まった。アレルギーや心疾患のある児童について、保護者と必ず面談を行って、対応について職員間で共通理解し、事故なく終えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、水害など災害時の第1次、第2次避難場所、避難方法、緊急連絡先、連絡方法を児童が分かるようにカードに書いてランドセルに持っているなど</li> <li>・命を守る訓練の職員版が必要。</li> <li>→命を守る訓練の前に、事前打ち合わせを位置付け、職員の動きを確認する。繰り返す中で、マニュアルをつくっていく。</li> </ul>	
	4 ＜スリム化＞校務分掌や運営組織等を見直すなどして業務のスリム化を図り、児童生徒に関わる時間を増やすとともに、教職員自身が心身共に健康で、やりがいをもって教育活動に取り組めるよう、学校経営の充実を図る。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退校時間18:00を週に1回設定した。</li> <li>・業務自体のスリム化は進んでいない。</li> <li>・中休み、昼休みの行事が多い。</li> <li>・集計に時間のかかるアンケートの実施。行事関係の仕事が多く、スリム化されていない。</li> <li>・退校時刻を設定したことで、やや意識は持てた。掲示物や朱筆を見直すなど、少しずつ進みつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と残業平均はほぼ同じ。従来そのまま行えば、スリム化はできない。年度内に二委員会教育活動をしっかり見直す。よいもの・必要なものは継続・新設。そのほかは断ち切る。</li> <li>→福東ファイリングはリングファイルに変え、二委員会、職員会で活用する。提案資料は変更点、細案のみとする。</li> <li>・職員全体でスリム化できることなどを話し合い、改善点を見いだす。</li> <li>→今年度に見直しを図り、切るもの、残すものをはっきりさせる。出席簿のデジタル入力(教育委員会へ要望)、子どもの姿所見欄のスリム化(学習・生活、総合、英語活動)</li> <li>・休み時間をもっと自由な時間とした方がよい。</li> <li>→ロング休みは、福っこ遊び、かるた練習など、遊んで楽しいものに限定し、月2回にする。</li> <li>・集計しやすいアンケートに作りかえてもらいたい。・省いてもよい行事や仕事は省いていきたい。・時間的な余裕ももてるようにしていきたい。</li> <li>・来年度に、もっと掲示物等の見直しをしていく。</li> <li>→廊下掲示(マラソン・読書は個人情報)、背面掲示(学級のおゆみ)をなくす。</li> </ul>	
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける	5 ◎ ＜校内研修＞校内の主題研究を組織的・計画的に推進するとともに、教職員としての専門性や確かな指導力を高める研修を主体的に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校研究会を通して、1学期より福東小学校の研究についての理解を深めることが少なかった。</li> <li>・充実した校内研究が行われた。</li> <li>・全校研究会のグループ討議が充実している。国語の授業について深い内容の話し合いができていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆忙しいが研究内容①～③の内容について、自分の実践した授業について学期毎に振り返りをし、学期毎に全職員で報告会をすれば多少でも研究が深まり、自分の課題も見えてくる。</li> <li>・若手支援訪問の授業でも、国語の授業を発表したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学級でも積極的にICTを活用した授業が行われている。その利点と課題を確認する必要がある。</li> </ul>
	6 ＜個人研修＞経験年数や職務に応じて、一人一人が個人研修課題を明確にし、具体的な目標と方策をもち、教職員としての資質や能力を高める研修に主体的に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期同様たくさんの授業を見せていただき、学んだことを実践している。</li> <li>・町研以外でも研修に参加できた。教材研究が1学期よりもできる時間が増えた。</li> <li>・空き時間が使えて大変助かっている。道徳などの研修に参加し、「議論する」道徳というものについての理解が深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって今後も教材研究に励みたい。さらに、研修に積極的に参加し、専門的な知識を高めていきたい。</li> </ul>	
	7 ＜情報研修＞分かる授業のためのICTの効果的な活用方法及び情報モラル等、情報活用能力の向上に関わる実践的かつ効果的な研修を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろより、授業でICTを活用した授業を行っている。特別支援では教師と児童が1対1で授業を進める中で効果的にPCを活用できた。情報モラルの研修は児童の興味・関心を引きつけた。</li> <li>・夏休みに大野小学校に算数のICT活用の研修会に参加し、校内で広めることができた。また、自分自身もスキルを上げ、様々な場面で活用した。</li> <li>・情報主任により、充実した情報モラル指導が行われた。授業の度にデジタル教科書を活用することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート以外でも実態把握・情報収集に心がける。</li> </ul>	
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する	8 ◎ ＜基礎基本の定着＞指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の検定では、評価基準が統一され、取り組みやすいものとなった。</li> <li>・基礎基本を身につけさせるために、丁寧な家庭学習の見届けが行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で家庭学習の内容の交流、学年間の差の解消。</li> <li>→まずは、学年部会で話題にして、大きな差がないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字を丁寧に書かないと心が伝わらない。下手であってもよいから丁寧な字を書くように指導する。</li> <li>・鉛筆の持ち方を直す必要がある。姿勢の悪い児童への指導が必要である。</li> <li>・国語は教科の中心である。さらに授業の充実を図ってほしい。</li> <li>・輪之内町に俳句の指導をしていただけた先生がいっぱいいる。指導をしていただくことよい。また、作品が認められる場があるとよい。</li> </ul>
	9 ＜個に応じた指導＞指導内容の系統性、発展性や児童生徒の発達の段階を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた多様な指導方法や体制、評価を工夫改善してきめ細かな指導をし、確かな学力の定着を図り、その状況や実態を見届ける。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の実態把握が1学期よりも深まり、効率よく中間指導ができるようになった。</li> <li>・配慮が必要な児童に対して個別に指導ができたが、やりきることができなかった。それぞれの学習状況をしっかりと把握し、確実に力を付けることができるように個別の指導を充実させた。</li> <li>・内容が難しくなる中学年に少人数を位置づけたことで、先生にわからないところは気軽に聞けたり、また教師の目も行き届いたのでよかった。高学年では、児童が進んで教え合い学習をしたり、わからないときは積極的に教師に質問したりするなど、主体的に学習が進められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に配慮が必要な児童に対する指導をより丁寧に計画的に行っていく必要がある。</li> <li>・算数で2に入っていただけで、とても助かっている。しかし、中学年少人数よりも高学年少人数の方がいいと思う。</li> <li>→習熟別少人数指導で、特にじっくりコースの教師主導型の授業は見直されている。子どもが主体的に学んでいけるような、教え合いをうまく授業に取り入れて高まりあっているように授業改善をしていく。</li> </ul>	
	10 ＜学習集団づくり＞児童生徒の発達の段階に応じた各教科の学び方を身に付け、学び合う学習集団へと質を高めるとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手・発言や聞き方の指導を粘り強く行い、学習規律が身につけてきた。自主学習も家庭で行う児童が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長や学習係や教科係などのリーダーを中心に、自分たちで学びの姿勢をつくる。以前やっていた始業時の挨拶に学習のめあてや振り返りを話させる、ノートに日にちと題を書いておきチャイムで挨拶、学習が始められるようにする、など。</li> <li>・児童が自分たちで授業を進める工夫をもっとしたい。技を学びたい。</li> </ul>	
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる	11 ＜全教育活動を通じた道徳教育＞道徳教育推進教師を中心として、道徳指導別業を活用し、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画を工夫改善する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別様などの価値項目をそれぞれの学年の先生に協力して頂いて、新学習指導要領に合わせる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間行事は決まっているので、年間を見通して道徳資料を配置し、行事との関わりを密にして各学級で振り返りも丁寧に行う。</li> <li>・別様の活用があまりできていないため、常に手元に置いておくなどの工夫が必要。打ち合わせで、活用を啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間だけでなく、各教科の授業の中で道徳的指導を取り入れていくことよい。</li> <li>・道徳という教科に対する教師の評価というものに対して、教師側の対応の難しさを感じる。</li> </ul>
	12 ◎ ＜道徳の時間＞道徳の時間(道徳科)のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力が育成されるよう、指導過程や指導方法を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値に迫れるように、主人公と自分を比較して、自分の弱さを認め、こうありたいと考えることができる児童も出てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30年度の道徳の時間の評価にむけて、評価の視点や表現。また、評価するための指導過程や指導方法を明確にしていける必要がある。</li> <li>・どの子どもも真剣に自分の弱さに向き合い、考え、よりよい生き方をしようという心情を育てていきたい。道徳科に向けて、「議論する道徳」を目指すためには、どのような方法があるのかということを開発していく。</li> <li>→1度研修会を持ったが、共通理解を図っていくために道徳推進教師を中心として研修会を位置づける。</li> </ul>	
	13 ＜心を育む体験活動＞ふるさと教育や「あいさつ・美化・ボランティア」への取組を通して、自己を見つめ、他を思いやる指導を充実する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢集団での掃除や遊びの中で、思いやりの心が育っている。生徒指導が中心となって、あいさつを重点に、子どものよい姿を評価し、価値付けた。学校訪問者から「自然で心地よいあいさつだ」と高く評価された。</li> <li>・感謝の気持ちを表すことを特に大切にさせる指導をし、言葉にすることができてきたことを実感している児童が増えた。</li> <li>・年間を通して「あいさつ」「掃除」にはこだわって指導できた。福祉委員会や生徒指導の先生中心となり、挨拶の取組みを行ってもらえた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで感謝の言葉をかけることが難しい児童がまだいる。言われる体験を増やし、実感させたい。</li> <li>・体験活動が形式的なものにならないような配慮が必要。ボランティアという点が弱いと思う。</li> <li>・ボランティアという点でも心をはぐむというなら、何らかの取組が必要だと思う。</li> </ul>	



町の重点	評価の観点	評価	3学期の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【小学校外国語活動】外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	14◎ ＜指導計画・指導体制＞児童の実態や学習段階を考慮した指導計画を工夫改善し、一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう指導を充実する。(小)	B	・担任が主導で児童の実態に合わせた外国語活動が行われている。		・英語に関心があり、遊び感覚で楽しんで取り組んでいるのがとてもよい。担任教師がALTと同等に前面に出ているのはよい。 ・中学校教師との交流を進めていくとよい。
	15 ＜指導過程＞積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を工夫する。(小)	A	・ALTの勤務時間を変更し、打合せの時間不足が解消された。1時間の外国語授業の流れや振り返り場など、校内で統一したものがあり、担任がT1を行うことが浸透してきた。 ・外国語を積極的に発音したり、楽しくゲームをしたり、意味を理解したいと考えたりと、意欲的に参加できている。 ・ゲームを多く取り入れることで、楽しく活動することができている。	・学担は互いに授業を参観するとよい。また、時には打合せに外国語担任も参加して、T1として学担が動けるようなアドバイスをするとうい。	
【総合的な学習の時間】探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	16 ＜全体計画・指導計画＞小・中学校の接続や各学校の目標を踏まえ、学習のねらいや内容、各教科等との関連を一層明確にし、課題意識が連続発展するよう全体計画や指導計画を工夫改善する。	B		・総合的な学習の体験学習などの連絡先などを指導計画の中に組み込むことが必要。 ・学習内容を精選する必要がある。 →担任は、カリキュラムの見直し、修正を行って引き渡す。	・学んだことを実践する機会を、家庭でも積極的に設けてもらうよう、PRが必要である。
	17◎ ＜探究的な学習＞身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、総合的に働かせるよう、体験活動と言語活動を意図的に設定し、探究活動を充実する。	B	・国語の授業で磨いた技を使って、総合のテーマについて調べたことを文章表現したり、総合の時間に学習したことを、国語の文章表現の題材に生かしたりしている。見通しを持った取組をしてもらえようように声をかけた。	・国語でも出口となる言語活動がはっきりしていることで意欲的に取り組めると分かった。総合についても、学期毎の出口となる言語活動を明確に持つ。 ・単学級の担任一人ではなかなか充実させることが難しいが、先輩にアドバイスをもらいながら授業に取り入れている。	
【特別活動】所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる	18 ＜指導と評価＞児童生徒の自発的、自治的な活動（いじめ問題への取組等）を展開し、一人一人の児童生徒が自分に自信をもち、自分のよさや可能性を発揮してよりよい生活や望ましい人間関係を築こうとすることができるよう指導と評価を一層工夫改善する。	A	・各委員会が児童朝会や校内放送、教室を回るなどして自分たちの委員会のキャンペーンについて真面目に活動できる。 ・1学期同様、生徒指導の先生を中心としたいじめを起ささない取り組みをたくさん行い、指導をしている。また、学級独自の取り組みをリーダーを中心に行っている。温かい行動が増えている。 ・委員会活動では、どの委員会も常時活動にきちんと児童が取り組んでいる。また、各委員会ごとに創意工夫あられる活動ができている。	・今の子は面白いと食いついてくるので、マンネリにならないよう、さらに意欲をもたせるために楽しさや目新しさが重要か。教師が斬新なアイデアを提供したい児童による工夫された活動をどんどん行っていききたい。問題行動が起きてしまったので、さらに一人一人が自信をもてるように活動を仕組んでいく。	→学級会(話し合い活動)が充実するように話し合いの手立てを職員会で提案する。また、議題も児童会から提案する。
	19◎ ＜学級経営＞学級の諸問題を解決する活動を通して、望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育て、学級経営を充実する。	B	・学級代表を中心に、話し合い活動の仕方を覚えつつある。		
【生徒指導】共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる	20◎ ＜生徒指導（教育相談）体制＞不登校や問題行動（いじめ、暴力行為、薬物乱用、性非行、インターネットを利用した誹謗中傷や違法行為等）といった生徒指導上の諸問題に対して、全教職員が危機意識をもち、日常的な教育相談やアンケートなどを通して未然防止や早期発見に努め、家庭や地域・関係機関等との連携を積極的に推進し、組織的に対応する。	B	・夏休み中に発見したいじめについては、家庭訪問、事実確認、指導、保護者への連絡まで、迅速に行うことができた。不登校児童に対する手立ても、11月までは手詰まり感があつたが、ケース会議、母親との懇談を契機に再登校まで持ち込むことができた。 ・担任や当該教員のみならず、組織で問題行動に対しては対応できた。 ・重要な問題に対しては、打合せ等で全職員で共通理解を図り、学校体制で指導を行うことができた。 ・何かあったときには、すぐに対応して下さって、全職員で対応できた。アンケートの内容を時期によって変えながら、児童実態の把握に努め、問題を発見した際には職員で連携して迅速に対応することができた。また、SCの河村先生の見立てや助言を、職員間で共通理解することができた。	・教員間の意思疎通がうまくいっていない場面があった。SCについて保護者への紹介も、必要に応じて行っていく。 →週に1度、打ち合わせの後、関係職員で10分程度のケース会議をもつ。 →新しいアンケート方式…自宅に持ち帰り、無記名で封をして提出する。このアンケートで実態をさらに細かくつかむ。	・いじめはどこでもいつでもだれにでも起こること」という認識でよい。いじめがなくなることはない。報告をおそれる心配はない。「起きてあたり前」と考え、早期発見、迅速に対処していけばよい。 ・いじめに関して情報共有を進め、早めに芽を摘んでほしい。評議員の力も使ってほしい。
	21 ＜学年・学級経営＞一人一人が個性を発揮し、存在感・所属感・達成感を味わい、望ましい人間関係を築くことができるよう、児童生徒の関わり合いを大切にしたい学年・学級経営と授業を全校体制の指導により充実する。	B	・各学級、仲間のよさを認め合う活動は充実している。単学級なので、学年部のつながりを意識して協力しながらできた。		
	22 ＜生命尊重・倫理観・規範意識＞全教育活動を通して、一人一人が自他の生命を尊重し、倫理観や規範意識を向上させることができるよう指導を徹底する。	A	・道徳教育などで生命の大切さや、決まりの大切さを考え、実践に生かしている。また、学級に植物を絶やさないように、育てる活動をしている。	・職員もさらに子どものよさを引き出す指導を心がけたい。	
【進路指導】自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる	23◎ ＜勤労観・職業観＞望ましい勤労観・職業観が育つよう、他の教育活動との関連を図り、ねらいを明確にした体験活動（職場体験、係活動、清掃・奉仕活動など）を位置づけるとともに、事前や事後の指導を充実する。	B	・将来の夢を描くために、成功した人や技能がある人の講演・講座を受ける機会が設けられたのはよかった。 ・福っ子掃除や福っ子遊びを実施したことにより、他学年と活動する機会もあり、よかった。	・小学生の段階から、もっと進路指導について時間をとるとよいと思う。将来の職業の幅や生き方が広がると思う。 →ボランティア活動を充実させる。(掃除・草取りなどの作業)	・小学生なりの将来の期待や希望を持たせ道実現できるかを考える時間をもつ。
	24 ＜ガイダンス＞一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて自分のよさを生かし主体的に進路選択ができるよう、個に応じた正確な情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンスの機能を充実する。(中)	B			
【健康教育】運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる	25◎ ＜保健・安全・食＞児童生徒の体力・運動能力、食生活等の生活習慣、心身の健康状態及び安全に対する意識・行動を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「健康・安全・食」に関する指導を工夫改善する。	B	・日課変更で5分給食時間が確保でき、45分までに食べることができるようになった。栄養教諭による食育も計画通り進んでいる。歯磨き教室、薬物乱用防止講座なども実施できた。 ・保健の授業を養護教諭とTTで行う等、充実させることができた。各種アンケートや生活チェック、来室児童への問診などから児童の実態を把握し、発育測定の間やお昼の放送、児童への直接の声かけなど、いろいろな場面で指導を行っていくことができた。	・本校は肥満の子がやや多い傾向にあるので、給食のおかわりや量について、親との共通理解を図って運動量増加や食事制限を設けていくのも必要か。 ・睡眠時間や食生活、歯みがきなど、改善させていきたい部分が多いため、継続的に指導していく。	・登校時に親も出て見送りをしているのが安心である。 ・給食は無理に食べさせないという方針は今もなっているようだが、牛乳を飲まない子もいる。ある程度は飲ませる指導が必要である。
	26 ＜運動推進＞児童生徒が課題や願いをもって積極的に体力づくりに取り組み、日常的な運動実践の場や機会を充実する。	B	・朝マラソンが昨年度よりも少ないが、集中して走っている。	・3学期も朝マラソンを実施することで400周達成を目指したい。	
	27 ＜未然防止＞児童生徒の健康・安全を守りきるために、学校と家庭、地域社会が連携した組織体としての総合的な力を発揮し、健康被害等の未然防止に万全を期す。	B	・感染症が流行った時には学校医の指示を仰ぐなど、連携した対応ができた。		
【特別支援教育】一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる	28 ＜校内支援体制＞特別支援教育コーディネーターを中心として、こども園や関係機関との連携を図りながら、ケース会議等で児童生徒理解を図り、一人一人の教育的ニーズを正しく理解して、全教職員が組織的に合理的配慮の充実を努める。	B	・特別支援CDの働きかけで、こども園年長組の参観を行い、児童理解ができた。 ・打合せで配慮児童の共通理解をすることで、全職員体制で関わることができた。 ・ケース会を位置づけ、児童の様子を定期的に交流することができた。	・年長組参観を行い、理解深める。ケース会議で情報交流を図る。入学説明会後、保護者との懇談会を行い、支援の方向を明確にする。担任が一人で負担しすぎることなく、全員で協力体制がつけられるようにしていきたい。	・教室の掲示物が整理されているので安心である。 ・こども園の参観を年少組から行い、将来の子ども成長を予測しながら連携を図るとよい。 ・短期的な部分と、長期的な部分に分け、将来（成人以降）はどうするかも含めて、保護者と話し合っていくことが大切である。
	29◎ ＜個別の支援＞本人・保護者との合意形成及び関係機関との連携の下、合理的配慮の継続的な提供及び定期的な見直しができるよう一人一人の教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用し、一貫した支援を行う中で、一人一人が能力や特性を発揮し、主体的に活動できるよう指導内容や指導方法、評価を工夫改善する。	B	・必要に応じて、保護者から事情聴取したり、対応策を話し合ったりすることで、保護者の合意のもと進めることができた。	・全てを把握しているわけではないので障害があるのではないかという見立てに自信を持って専門家を頼りたくなるが相談機会が少ない。また、支援が必要な子の親にどのようにしてアプローチしていくとよいのか。親の気持ちを損ねることを恐れ合意を形成したりすることがしにくい状況。専門的な立場からのアドバイスがもっと欲しい。またそのような機会を増やしてほしい。 →要望すれば、専門家の先生に来ていただいて、見てアドバイスもいただける。今後支援についてアドバイスが必要な場合は申し込んで専門的な立場からアドバイスを頂く。(専門的な立場からのアドバイスがあれば親も信用される。)	
	30 ＜交流及び共同学習＞特別支援学級等と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的・継続的に、社会性や豊かな人間性を育むことができるよう指導を充実する。	B	・定期的な交流ができている。		
【人権教育】不合理な差別をなくし、人権を尊重する温かい人間関係を醸成する	31 ＜人間関係の醸成＞互いのよさを認め合い、温かく思いやりのある望ましい人間関係を醸成する指導を工夫改善する。	A	・行事ごとに取り組むことにより、児童の人権感覚に敏感になりつつある。行事ごとに、他学年のよい姿を見つけ、思いやりカードを渡すことで、温かな人間関係ができている。 ・かがやき見つけを学年だけでなく、学年部や全校で行ったり、教師が子どもに向けて行ったりしている。「苗さし集会」や「福っこそうじ」での学年を超えた「よいとこ見つけ」を、観点を決めて行い、委員会による全校放送での価値付けにより、1年生が6年生など上級生にあこがれるようになった。	・「命」の尊さを人権委員さんたちによる音読劇で学ばせたい。 ・少ない時間内での子ども達によるカードの掲示をいかに行うか。	・掲示物などで、一人一人のよいところを位置付けられているのはよい。 ・アクティブラーニングを現状に折り合いを付けて取り入れていくと、他人を思いやる心が育つのではないかと。

町の重点	評価の観点	評価	3学期の成果	来年度への課題と改善策	学校関係者評価（意見）
	32 ◎ ＜いじめ・差別の解消＞いじめや差別を許さない学校・学級づくりに徹し、全校が一丸となった取組を継続的に行う。	A A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎日の下校で「いじめ0宣言」を唱えることで児童が「いじめ」は悪いことと捉えている。具体的な指導も生徒指導から直接全校に行われているので、一人だけの問題にならなくて良い。いじめが発覚後、生徒指導を中心に、事実確認、指導、報告が迅速に行われ、小さい芽のうちに摘み取ることができた。毎月のアンケート調査や、教育相談で一人一人の児童に対して学級担任は心配りをしている。</li> <li>• 必要に応じてケース会議や職員間の交流会を設けた。</li> <li>• いじめゼロ宣言に関わらせて指導を充実させる。</li> <li>• 徹底して、スローガンを唱えることで、子ども達自身にいじめ・差別問題を自分のものと考えさせる事ができつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「いじめ0宣言」の継続と、「思いやりの花」運動を継続する。教員のための教員による人権教育の機会を創る。</li> </ul>	
【情報教育・図書館教育】 ・児童生徒の情報モラルを高め、情報化社会に対応できる情報活用能力を育てる ・日常的に読書に親しみ、教養・価値観・感性を高めようとする態度を育てる	33 ＜情報活用能力＞情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3年生以上は、総合の時間にパソコン室を利用して情報収集に活用している。</li> <li>• パソコン室でのキーボード・島アドベンチャーや調べ学習を通して、スキルの向上を目指している。</li> <li>• 情報主任のもと、充実した情報モラル教育がなされた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単発的な指導になってしまった。「系統的に」という部分が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネット上の意見が全て正しいと思わせないよう、指導や理解を図ることが必要。</li> <li>• 学校でも家庭でも児童所有のケイタイ・スマホ等の情報モラルについて長期的に指導する必要がある。</li> </ul>
	34 ◎ ＜情報モラル＞情報モラル（SNSを介したネットトラブル等）について、意図的・効果的な指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学期末に情報モラルを位置付け、情報社会で起こっている問題点を具体的に示して、どうすればよいかを考えさせ、ルールの浸透を図ることができた。長期休暇前に、全校でネット書き込みやなりすましの恐ろしさについて理解し、注意することを話し合えたことは効果的だった。</li> <li>• 1学期に続いて、2学期は学年部ごとに情報モラル教育を行い、それぞれの発達段階にあった話し方をすることができた。</li> <li>• 学年部で指導してもらえてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高学年は、ゲームや携帯電話を活用している子が多いので、中学校までを見通して指導していきたい。</li> <li>→<b>雨の日で、学年順にパソコン室解放日を設ける。</b></li> </ul>	
	35 ＜図書館教育＞学校図書館を利用しやすく整備し、図書の計画的利活用や読書活動の推進に取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 司書教諭や学校司書による図書館整備や、校内研究で進めている図書の利用指導によって読書に親しむ子どもに育てている。</li> <li>• 分類や並べ方を整理整頓しており、探しやすい。</li> <li>• 授業の中でも積極的に図書館を利用することができた。図書館もより充実してきており、それに伴って児童の意識も高まってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• さらに魅力的な図書館にするために、思い切った本の廃棄、すっきりした配架を進める。</li> </ul>	
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思いう心を育てる	36 ◎ ＜ふるさと学習＞地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域探検や福東講座などを通して、交流や学習を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 同居の家庭が減ったが、通信や学校便りで孫を通じておじいさんおばあさんなど年配の人を募集し、「生活科の畑の先生」や「昔の遊びの先生」など、銘打って地域の人に来ていただき教養を請う機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校区文化祭という名前の下で続けてほしい。</li> </ul>
	37 ＜国際交流＞国際交流などを通して、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化を理解する力等を身に付けられるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6年生は、修学旅行で全員が、「外国人の方に話しかけ、会話をする」という課題を達成した。2年生は、社会見学で全員が「家族への土産を購入」という課題を達成し、店の方と会話できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前指導のもと、児童に判断力や行動力、コミュニケーション力を求める場を、さまざまな活動で設定する。</li> </ul>	
【防災教育】 自らの命を守るための防災意識の向上を図る	38 ＜防災教育推進＞学校防災マニュアル等について、学校や地域社会の実態を踏まえた改善を行うとともに、マニュアルに基づく訓練や校内研修会を実施するなど、安全管理体制と一体化した防災教育を推進する。	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 下校時、休み時間など避難経路を子どもが判断しなければならない想定や、堤防決壊など地域の実情に応じた訓練ができた。台風時には、訓練どおり引渡しがスムーズに行えた。</li> <li>• 訓練では、色々な事態を想定しているが、職員の動きがはっきりするとよりよい。</li> <li>• 「命を守る訓練」は回数を重ねることに非常に上手くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 消防法に基づいた訓練がなされていないので、通報訓練、消火訓練を命を守る訓練を必ず実施する。実践に生きる訓練にするために、訓練の前にシミュレーションを位置付け、職員研修の場とする。</li> <li>• 通学路での地震の発生に際し、とっさに身を守るという行動をとるならば避難場所を決めるのではなく、地区ごとに通学路に着いていき、「この場所は車が通るから避難は無理。」「ここはへいがあるから避難しては危ない。」など避難できない場所を教えるほうがよいのでは、という意見がありなるほどと思った。</li> <li>• 年間の中で、いろいろな状況や場合を設定していくことで、さらに意味のあるものになっていくと思う。</li> <li>→<b>消火訓練を位置付ける。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 登下校の列に車が突っ込む事件もある。登下校時の非常事態を想定して訓練を行い、地域の方への見守りのアピールをしていく必要がある。</li> </ul>
【家庭学習の充実】 自分の力で学習ができる児童生徒を育てる	39 ＜家庭学習習慣＞家庭学習の手引きを活用し、望ましい家庭学習の習慣の定着を図る。	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個別懇談に「家庭学習の手引き」を保護者に持参していたことで、意図的に活用を図ることができた。</li> <li>• 自主学習は増えたが、検定が終わると減少する。家庭学習の見届けを、もう少し保護者の方にもお願いしたい。6年生で、以前はなかったが、最近算数で「予習してきた」という声が聞かれた。取り組んでいる児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドリル学習が中心の宿題になっているが、平行して自主学習や、学んだ言語の技能を生活に結び付ける家庭学習の提示などを学習委や研推で検討する。</li> <li>• 手引きを活用されているのかはよくわからない。家庭によって大きな差があるため、保護者への啓発も積極的に行っていく。</li> <li>• 特に上の学年の保護者の方へ通信などで啓発していけるとよいと思う。</li> <li>→<b>高学年は、教師が意図的に自主学習に取り組ませる。予習や復習、調べ学習など、家庭学習に組み込ませていくことが必要である。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者に家庭学習の大切さとともにおろそかにすることの危険性も伝えていく。</li> </ul>